

議事録（要旨）

会議名	姫路市新美化センター建設候補地選定に関する津田地区住民説明会
開催日時	令和6年2月23日（金） 18時00分～19時20分
開催場所	姫路市環境ふれあいセンター 大ホール
参加者	（参加者）津田地区住民15名 （事務局）農林水産環境局長、環境事業推進室長、環境事業推進室主幹2名、 環境事業推進室7名
議題	姫路市新美化センター建設候補地について
資料	姫路市新美化センター建設候補地について

内 容

1 開会あいさつ（農林水産環境局長）

姫路市では令和14年度の稼働開始を目標とする新たな美化センターの整備に向けて取り組んでいる。その建設場所については、環境審議会で審議・答申いただいた選定方法に基づき、副市長を委員長とする庁内組織で約1年間かけて慎重に審議を重ね、今在家の旧南部美化センターの場所を最終的な候補地として選定した。

市内全域を対象に土地を抽出し、様々な角度から設定した項目で選定を行った結果、新美化センターを建設するのに最適であると評価したものである。

新美化センターの整備にあたっては、環境に配慮し安心・安全で安定的なごみ処理が可能な施設とすることはもちろん、新美化センターがまちづくりの核となり、地域の活性化と発展に繋がるような整備を目指していくので、地域の皆さまのご理解をお願いしたい。

今回は3回目の説明会となりますが、前回までの説明の内容に加えて質疑のあった事項についても説明させていただき、意見など伺いたいのでぜひ発言願いたい。

2 議題

・ 姫路市新美化センター建設候補地について

事務局より「資料 姫路市新美化センター建設候補地について」説明

主な意見等

・ 国道250号線の渋滞により生活道路へ進入する車両が多く困っている。ごみ運搬車両が増加すると進入してくる車両も増えると思うが、何か対策を講じるのか。

⇒委託・許可業者については指導を徹底する。一般車両については、警察等とも連携して注意喚起の徹底等、対策を講じたい。

・ 既存の工場からのばいじんの影響で、家の窓を開けていると黒くなる。美化センターが建設されるともっとばいじんが増えるのではないのか。

⇒ばいじんが全く出ないということはないが、バグフィルタや除去装置により、ゼロとは言えないが環境基準値内で排出される。

- ・基本方針に「安心・安全で安定的に処理が可能な施設」、「災害が発生した際にも安定してごみ処理ができる施設」との記載があるが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

⇒ごみ処理が滞ると市民の皆さまに迷惑がかかるため、地震や津波にも強い堅牢な施設を作っていきたいと考えている。例えば、津波に対しても浸水しないような構造や、設備の配置を考慮して建設したいと考えている。

- ・家島のごみは、船舶でエコパークあぼしへ運搬しているが、当該候補地の東側には船場川があるため、エコパークあぼしの故障等に備えて、新美化センターでも受け入れできるよう検討したらいいのではないかと。

⇒リスクヘッジは大変重要であると考えているため、今在家で決定となれば、水深や接岸の可能性などを調査し、事業の推進・進展を図りたい。

- ・住民の生活環境は非常に大事だと思うが、評価項目の中に騒音・振動・大気汚染の項目がないのではないかと。新美化センターでは、騒音・振動・大気汚染の問題について、対策されるのか。

⇒住環境については、住宅地や福祉施設等との距離、通学路への影響の有無、周辺の交通事情などの評価項目が入っている。新たな施設には最先端設備・技術を導入するため、ご迷惑をかけるようなことにはならないと考えている。近隣の施設やプラントメーカーへの聞き取りから、今の技術であれば心配ないと聞いている。また、道路関係についても、播磨臨海地域連絡道路をはじめ整備が進んでいくため、交通渋滞や振動・騒音問題も軽減されていくと考えている。市としても生活環境が一番大事なことであり、生活環境を悪くするつもりはなく、地域のためにメリットのある事業として貢献していきたいと思っている。

- ・一次選定で災害リスク回避、二次選定で防災の観点から候補地を評価したとあるが、災害と防災というのは裏表だと思う。具体的に評価の内容を教えてください。

⇒一次選定では、法的規制や災害のリスクのある場所を除外した。例えば、土砂災害警戒区域や県立自然公園、農業振興地域農用地区域。津波などの浸水想定については、3 m以上のエリアは除外した。

二次選定の防災の視点では、洪水などの浸水想定が3 m未満のエリアについて、50 cm未満、50 cm～3 m未満などに分けし、点数化して細かく評価した。3 m未満であれば、施設の構造や対策により対応可能ではないかという観点から、一次選定と二次選定の二段構えで評価を実施した。